

## Contents

### 旭川工芸技術等継承事業 P1

地域の技術者から若手へ -木製品・窯業実習コース、座学コース-

### 各種展示会・イベント P3

国際家具デザインフェア旭川（IFDA）2020  
クラフトコンペティション事業

### 試験室だより P5

接着剤の耐水性について

### 窯業研究室の取組 P7

和紙染め・モカウェア・レーザー加工・釉調合

### 製造業実態調査の概要報告 P9

家具・建具・工芸品・陶磁器製造業実態調査の概要報告

### その他 P11

工芸産地としての旭川をPRするための取組  
人事異動報告



# 旭川工芸技術等継承事業



地域の技術者から若手へ、ユーザーへ

新型コロナウイルス感染症の影響により人や物の移動が制限される中、今年度は感染症対策を講じながら、少人数、複数回開催による研修会を実施しました。お仕事後の時間帯にもかかわらず、多くの方が研修会に参加し熱心に耳を傾けていました。受講の際は感染症対策にご理解と御協力いただき大変感謝しています。

次年度も、木工・窯業業界の発展に寄与できるように、ものづくりに関する様々なテーマで、講習会を企画、実施したいと考えています。たくさんの方々のご参加をお待ちしています。

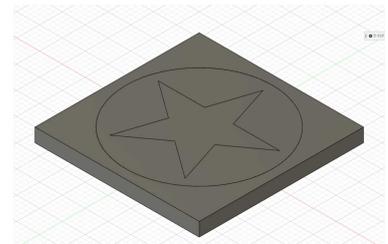
## ●木製品実習コース（受講者：17名 ※8回実施）

テーマ：5軸NCルータ実験機基本操作研修～モデル作成から加工まで～

講師：当センター職員

今回は、木製品製造の要素技術の分野において、Fusion360（3DCAD/CAMソフト）による3Dデータ作成から5軸制御NCルータ実験機を用いた加工までの一連の作業を研修で行いました。3Dソフトや加工機器に対する知識を深め、加工技術や生産性の向上を目的として、今回の研修を以下の流れで行いました。

- (1) モデル制作練習
- (2) 課題モデル制作
- (3) CAM説明、課題CAM設定
- (4) 5軸制御NCルータ実験機加工前設定及び注意事項説明
- (5) 加工
- (6) 成果物の問題点等の考察



今回は日頃から工芸センターの利用がない企業の方々にも多数受講していただき、意欲的に研修に臨まれている印象を受けました。また、工芸センターで5軸制御NCルータ実験機を利用している企業の方々も、更に技術を高めようと、熱心に取り組んでいました。

今回の研修をきっかけに、3Dモデル制作やNC加工に対する苦手意識を少しでも取り除くことができれば業界全体の仕事量や質が変わり、専門的な学校等を卒業していない方々の就職や、長期就労につながる可能性があるのではないかと思います。

研修期間は終わりましたが、希望があれば今回の内容で随時個別に受入研修を実施しますので、ぜひお問い合わせください。また次の段階の研修等も計画していきたいと思っています。



モデル制作の様子



NC加工の様子

## ●窯業実習コース（受講者：13名）

テーマ：「にじむ」装飾技法 - 和紙染めとモカウェア -  
講師：当センター職員

作陶における表現の幅を広げるため、「にじむ」ことで得られる美しさを共通点とした「和紙染め」と「モカウェア」の2つの技法について理解を深めました。

作品のイメージを強く印象づける装飾技法については以前から高い関心が寄せられていましたが、特に今回取り上げた技法は、この地域に定着していないこともあり、注目度の高さがうかがえました。

和紙染めに適していると思われる紙を持ち寄って試したり、モカウェアで使用する道具を工夫したり、受講された方々が主体的に取り組む姿が印象的で、最終日には「世界が広がった。」「面白かった。今後の作品に活用したい。」などの声が寄せられました。

様々な技術と知識をお持ちの方々に受講していただき、それぞれの経験に基づく貴重な情報提供や意見交換が行われるなど、当センターから発信するだけでなく、共に作り上げる有意義な研修となりました。



実習の様子（窯業）

## ●座学コース（受講者：39名 ※3回実施）

テーマ：木材接着の基礎

概要：①接着機構・固着や結合、ぬれ等の接着の仕組みについて

②固化様式・固化様式による接着剤の分類

③接着力の評価方法・JISで定められている試験方法の紹介

④接着強度に関する因子・異なる接着条件における、強度試験データの紹介

講師：当センター職員

十分な接着強度の発現には、用途に合った接着剤の選別に始まり、被着材（木材）の調整、適切な接着工程・操作が求められます。感覚的に理解されている作業だと思われませんが、本来の接着力を発揮するためには、いくつかの適正条件を積み重ねることが重要になります。

前半は接着用語や接着剤の種類・特性等の「接着理論」について説明し、後半は工芸センターで実施した試験結果に基づき、様々な因子（塗布量、圧縮力、養生期間、荷重方向、耐水性など）が接着力に与える影響について理解を深める内容としました。

受講者からは「普段の作業が理論的・化学的に理解することができ良かった。」「条件の違いによる強度差などを知れて勉強になった。」などの声が寄せられました。



講義の様子



# 国際家具デザインフェア旭川(IFDA)2020



## 木製家具の新しいデザイン

新しい生活文化の提案と発信を目的として、平成2年から3年ごとに開催している「国際家具デザインフェア旭川(IFDA)」は、今回で11回目の開催となります。国際的な木製家具のデザインコンペティションとして定着し、世界中のデザイナーと家具産地旭川にとって、より親密な国際交流を図る場となっています。

メイン事業であるデザインコンペティションは、37か国・地域から588点の応募があり、昨年12月に実施した予備審査で25点の入選候補作が選定されたところです。これから、家具実物による本審査を経て、最高賞であるゴールドリーフ賞をはじめとする入賞作品3点と入選作品が選定されます。

また、令和3年6月にはコンペティション入賞入選作品展などのイベントが開催される予定です。

●会期：令和3年6月16日(水)～20日(日)(予定)

●メイン会場：旭川デザインセンター  
旭川市永山2条10丁目

●デザインコンペティション

テーマ：木製家具

公募結果：588点(37か国・地域)

審査委員：

委員長 藤本 壮介(東京・建築家)

委員 廣村 正彰(東京・グラフィックデザイナー)

委員 アン・ルイス・ソマー(デンマーク・デザインミュージアムデンマーク館長)

委員 タッカー・ヴィーマイスター(アメリカ・プロダクトデザイナー)

委員 マイケル・ヤング(イギリス・プロダクトデザイナー)

●デザインフェア開催イベント

- ・デザインシンポジウム
- ・コンペティション入賞入選作品展
- ・旭川家具エキシビション他

●併催事業

- ・ASAHIKAWA DESIGN WEEK 2021
- ・「旭川工芸展」(旭川デザインギャラリー)他



本審査風景

「新生活様式に対応したクラフト」をテーマに、ポストコロナ社会を見据えた商品の提案を行う事による産地プロモーションと地場産業の活性化を目的として、「新生活様式に対応したクラフトコンペティション 2020」を開催しました。

旭川市内のクラフト事業者を対象に、木工、陶芸、皮革などジャンルを問わず、コロナ禍における人々の生活を豊かに彩るようなクラフト作品を広く募集し、全 38 作品の応募を受け付けました。機能性に優れたものや愛らしい造形で癒やしを感じさせるもの、ユニークなアイデアで使う人の心を弾ませるものなど、多種多様で魅力溢れる作品が揃い、審査員からも「コロナ禍の新たなライフスタイルについて、作家ごとに様々な視点からアプローチがなされ、その発想力やアイデアを実現する技術力の高さは見事だった」とのコメントをいただきました。

どの作品もクオリティが高く、非常に白熱した審査となりましたが、その中でも特に優れていると認められた次の 6 つの作品が入賞作品として選定されました



【うるおい賞】

Ki-lta 木のスプーンでワークショップ  
(Palemta shop&gallery)



【やすらぎ賞】

〇びな △びな □びな  
(小関 浩彦/K-WOOD)



【ときめき賞】

おうち時間でエイジングを楽しもう  
(新崎 史尚/皮革工芸キクヤ)



【審査員特別賞】

指型指圧木 マッサージャー  
(荒屋 勤/SPOON ARAYA)



【審査員特別賞】

万能野菜切り  
(菅野 秀雄/北都工芸社)



【審査員特別賞】

TOWN  
(丹野 雅景・丹野ゆり/丹野製作所)

また、令和 3 年 2 月 6 日 (土) から 8 日 (月) までの 3 日間、JR 旭川駅構内にて、本コンペティションの作品展を開催しました。旭川家具工業協同組合に御協力いただき、「旭川家具ラウンジ」のテーブルやシェルフをお借りして、上記入賞作品 6 点に入選作品 13 点を加えた全 19 作品の展示を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響も大きい中、会期中はお子様からお年寄りまで様々な方のご来場があり、旭川クラフトの魅力を多くの方に知っていただく機会となりました。



# 試験室だより



## ～接着剤の耐水性について～

水分による接着強さの低下は『木材の膨潤が接着層に応力を負荷させる』、『接着層が加水分解等により劣化する』に起因します。

当センターでも、テーブル天板の板接ぎなど、接着剤の『耐水性』に関する相談・試験が増えています。今回、5種類（※測定結果の表を参照）の接着剤を用いて、JIS K 6852（圧縮せん断接着強さ）にある耐水試験を実施しましたので、その結果を紹介します。

### 1. 耐水試験・・圧縮せん断接着強さ（JIS K 6852）

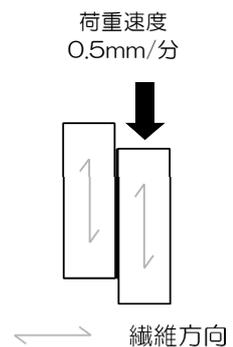
#### ●試験方法

- ①試験片を 30±1℃の水中に 3 時間浸漬
- ②試験片を 20±1℃の水中に 10 分間浸漬した後、濡れたまま試験実施
- ※浸漬 3 時間の他に 16 時間も独自規格として実施
- ※地域で使用量の多い『ナラ材』で試験を実施（JIS ではカバ材を推奨）

#### ●供試体

- ①樹種：ナラ材（比重 0.79 全乾）
- ②含水率：5.5%
- ③接着面積：6.25 cm<sup>2</sup>（2.5cm×2.5cm）
- ④接着面：柁目面同士
- ⑤接着条件：塗布量、圧縮力等は各接着剤の仕様書のとおり

#### ●試験条件

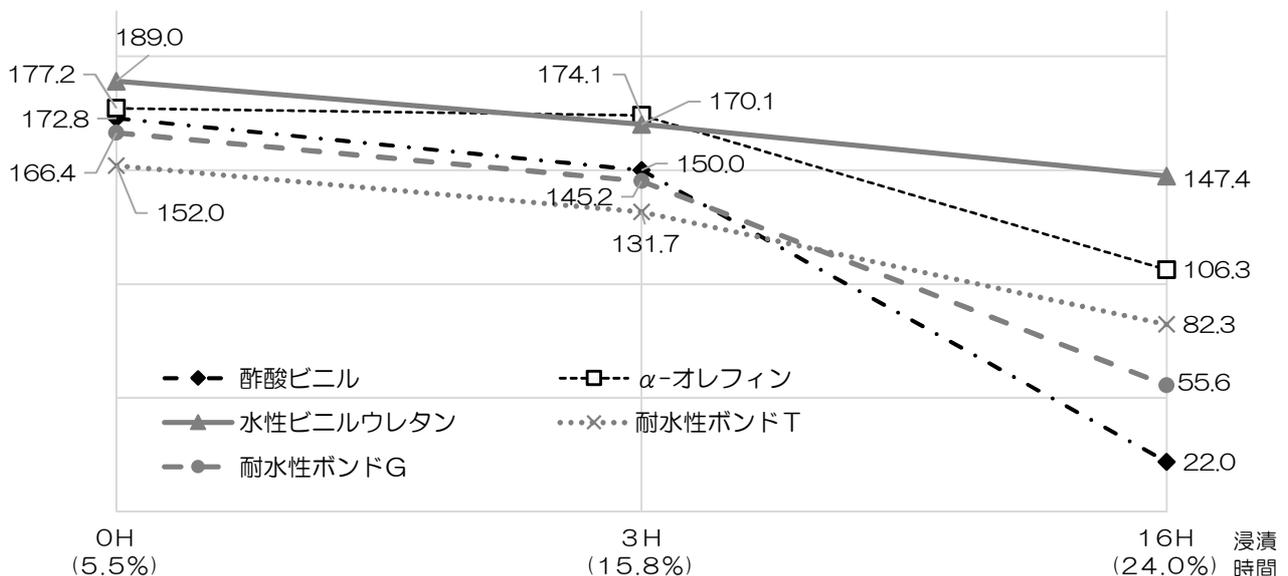


#### ●測定結果（数値は各供試体の平均値で小数第 2 位を四捨五入）

単位：kgf/cm<sup>2</sup>

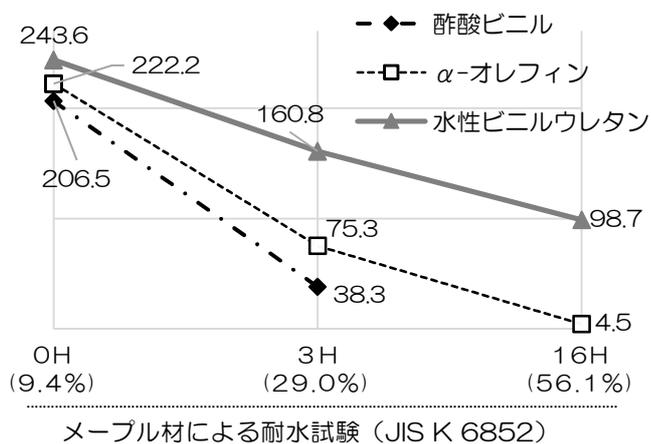
No	接着剤	接着強さ ( ) 内は木材破断率		
		浸漬なし 【含水率 5.5%】	浸漬 3 時間 【含水率 15.8%】	浸漬 16 時間 【含水率 24.0%】
1	酢酸ビニル樹脂	172.8 (54)	150.0 (0)	22.0 (0)
2	α-オレフィン系	177.2 (100)	174.1 (96)	106.3 (79)
3	水性高分子-イソシアネート系 (水性ビニルウレタン)	189.0 (100)	174.1 (100)	147.4 (95)
4	耐水性ボンド T	152.0 (100)	131.7 (99)	82.3 (23)
5	耐水性ボンド G	166.4 (100)	145.2 (88)	55.6 (5)

※④⑤は高耐水性を謳ったアメリカ製の接着剤（変性酢ビと推測される）



含水率変化は、浸漬 3 時間で 15.8% (約 10% 増)、浸漬 16 時間で 24.0% (約 19% 増) となっています。どの接着剤も浸漬 3 時間では若干の強度低下に止まり、酢酸ビニル樹脂系以外は高い木材破断を示しています。浸漬 16 時間では、水性ビニルウレタン系以外は 4 割以上の強度低下となり、木材破断率もかなり低下していました。

以前、メイプル材 (含水率 9.4%) で実施した試験 (右グラフ) では、含水率は浸漬 3 時間で 29.0%、浸漬 16 時間で 56.1% まで増加し、上記の試験結果とは大きく異なるものになりました。試験を行う際は複数の樹種を用いることが重要になります。



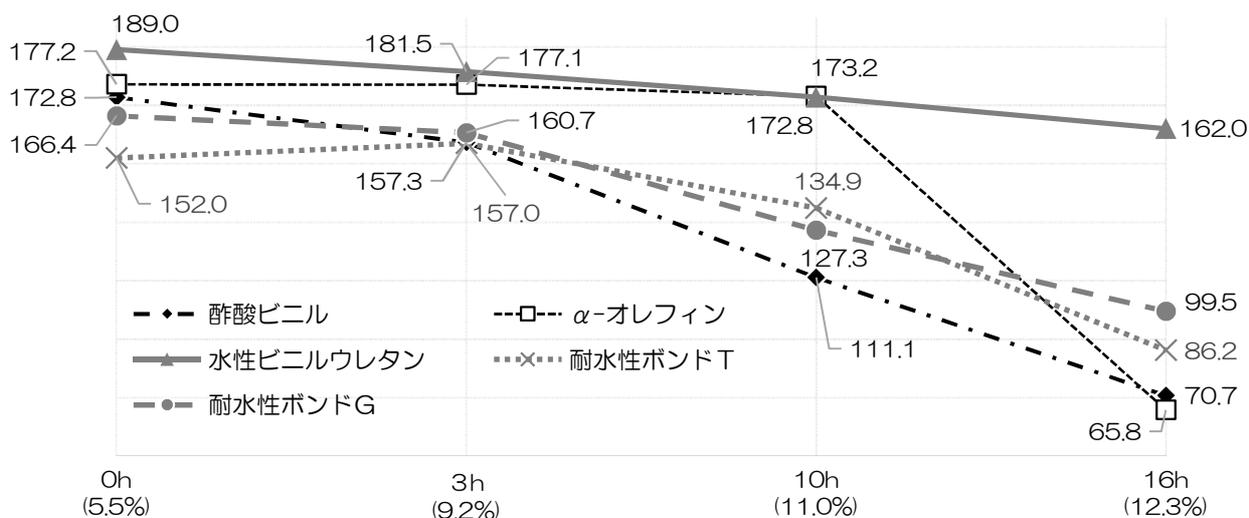
## 2. 環境 (増湿) 試験 ・ ・ 圧縮せん断接着強さ (独自規格)

日常の使用において、木製品が水中に浸漬するような状況は考えられないので、多湿な環境下 (温度 30°C ・ 湿度 90%) を想定した試験を実施しました。(※試験条件は独自規格です)

●試験方法および測定結果 (※供試体、試験条件、接着剤等は前述の試験と同様)

- ①試験片を温度 30°C ・ 湿度 90% に維持した恒温恒湿試験機内に静置
- ②4 時間後 ・ 10 時間後 ・ 16 時間後に取り出し試験実施

No	接着剤	接着強さ ( ) 内は木材破断率			
		増湿なし 【含水率 5.5%】	増湿 4 時間 【含水率 9.2%】	増湿 10 時間 【含水率 11.0%】	増湿 16 時間 【含水率 12.3%】
1	酢酸ビニル樹脂	172.8 (54)	157.3 (20)	111.1 (17)	70.7 (5)
2	α-オレフィン系	177.2 (100)	177.1 (100)	173.2 (100)	65.8 (5)
3	水性高分子-イソシアネート系 (水性ビニルウレタン)	189.0 (100)	181.5 (93)	172.8 (100)	162.0 (43)
4	耐水性ボンド T	152.0 (100)	157.0 (100)	134.9 (87)	86.2 (26)
5	耐水性ボンド G	166.4 (100)	160.7 (65)	127.3 (41)	99.5 (27)

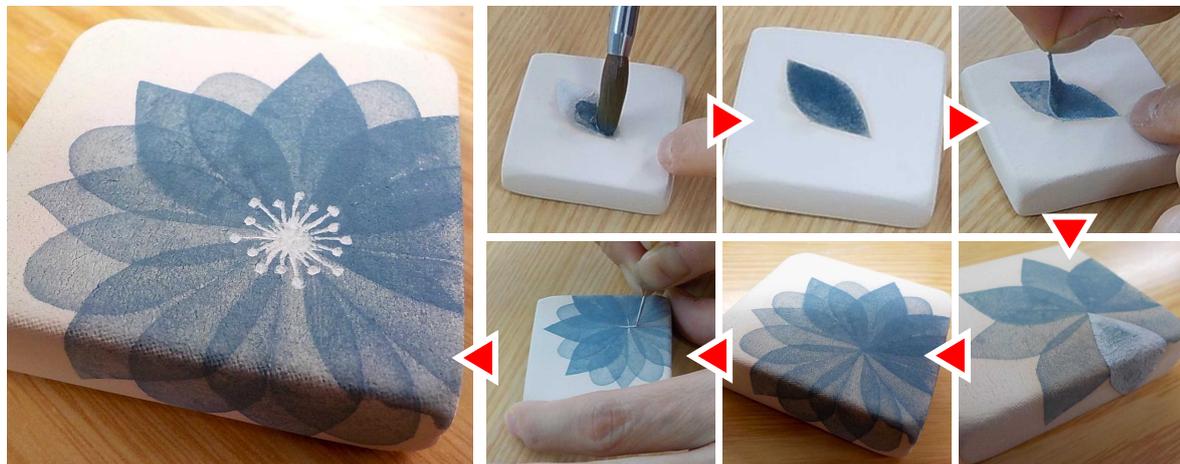


2つの試験において、接着強さ木材破断率ともに高い値を示したのは水性ビニルウレタンでした。異なる環境下でも安定した耐水性を発揮している点は心強いのではないのでしょうか。

注目して欲しいのは、両試験の比較において、供試体が置かれた環境により接着層の劣化が異なることです。浸漬 3 時間 (含水率 15.8%) と増湿 16 時間 (含水率 12.3%) の接着強さを比較すると、含水率が低い増湿条件の方がはるかに低い値となっています。接着剤の耐水性を検証する際は、JIS 規格に加え、実際の使用状況に近い環境 ・ 仕様での試験をお勧めします。

## 1 和紙染め

吸水性の高い紙を好みの形に切り、素焼きした素地に載せ、呉須をにじませることで絵付けをする技法で、筆描きによる絵付けが難しいと感じている方にも比較的取組みやすいものと考えます。



筆描きでしか表せない柔らかさや躍動感がありますが、和紙染めにもまた、筆描きにはない面白さがあり、幾何学模様や花のように、同一部分を幾重にも重ね合わせることで濃淡が美しい絵付けが可能となり、絵が苦手な方でも下書きなしで取組むことができます。

旭川工芸技術等継承事業 窯業実習コースでは、キッチンペーパーやトイレトペーパー、障子紙など、受講された方々が身近にある吸水性の高い紙を持ち寄り、試しました。

[試作例]



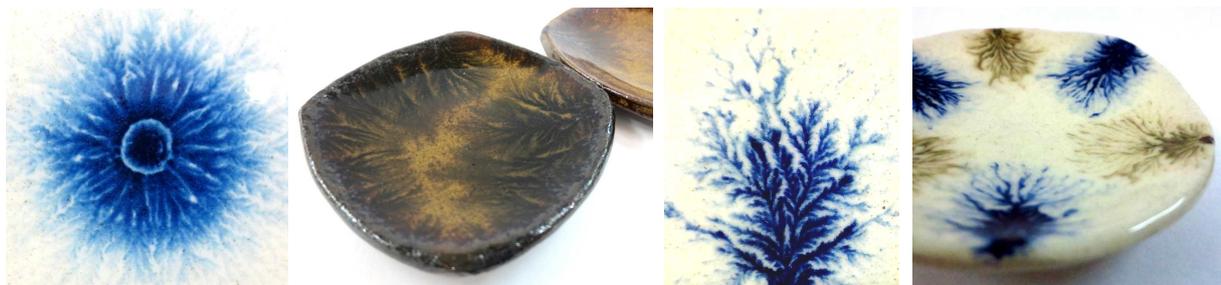
## 2 モカウェア

タバコの葉を煮出した液（モカ液）に、着色材（酸化コバルト、酸化クロムなど）を混ぜ、その滴を化粧土を施したばかりの流動性が残る面に落とすと、そこを起点にモカ液がにじんで広がり、木の枝や花のような模様が現れます。



しかし、タバコは高価である上、煮出した液は誤飲すると命に関わる大変危険なものです。手軽で安全に取組めるよう、当センターで身近な素材を様々試した結果、インスタントコーヒーを水に溶かすことで代用できることがわかりました。

[試作例]



### 3 釉面へのレーザー加工

陶器の本焼き後、釉面へのレーザー加工について検証した結果、釉薬の調合割合とレーザーの照射スピードを調整することにより、淡い銀色から鮮明な黒色までの加工が可能であることがわかりました。この技術は、次のような活用法が効果的であると考えます。

- ① 銀彩のような装飾
- ② サイン製作
- ③ 人物・ペットなどの画像やお子様の手書き文字、手形・足形などを用いた記念品製作 など



ご興味をお持ちいただけましたらお問い合わせください。😊😊

### 4 トルコ青釉の調合

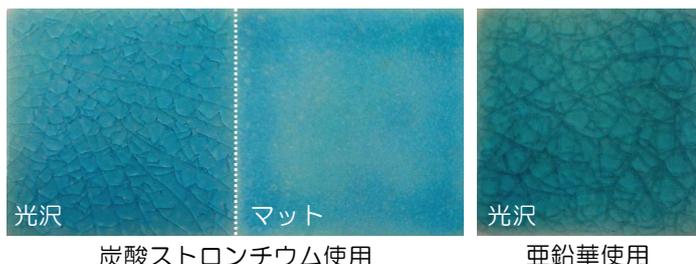
2018年度発行の「工芸ニュース Vol.81」においてトルコ青釉の調合について掲載しました。酸化銅を着色材として、主な媒溶材に炭酸バリウムと炭酸リチウムを使用することにより鮮やかな水色となり、白い素地ではすっきりと爽やかに、鉄分を含む有色素地では深い色合いとなることなどに触れ、微細な貫入や釉溜まりにより生まれる濃淡、素地と釉の境目に現れる緋色など、トルコ青釉の美しさや魅力についてお伝えしました。

[試作例]



この記事に関して様々な反響やお問合せがありましたので、現在は炭酸バリウムを使用しない調合など、更なる課題に取り組んでいるところです。――→

結果がまとまりましたら、今後の工芸ニュースや研修会等でお伝えしていきたいと考えております。



- 詳細についてはお気軽にお問い合わせください。
- カラーの画像は工芸センターホームページの「工芸ニュース vol.84」でご覧いただけます。



# 製造業実態調査の概要報告



## 令和2年度 旭川地域の木工業界調査

当センターでは旭川地域の木製品製造業及び陶磁器製造業の各業界について実態を把握するため、家具製造業及び建具製造業は毎年、工芸品製造業及び陶磁器製造業は隔年で、各企業への訪問や調査票の郵送により調査を実施しています。

今年度は、8月から11月までの期間に、令和元年度における各業界の売上高の実績や現状の課題などを調査し、各業界の総売上高と総就業者数を推計したところ、次のような結果となりました。

### ●令和2年度調査（令和元年度実績）各業界の推計総売上額及び推計従業員数

	推計総売上高 <sup>※1</sup>		推計総就業者数	
	今回調査	前回調査 <sup>※2</sup>	今回調査	前回調査 <sup>※2</sup>
家具	152億円	151億円	1,402人	1,398人
建具	20.5億円	22.4億円	136人	176人
工芸品	7.3億円	7.5億円	117人	125人
陶磁器	0.8億円	1.1億円	55人	60人

※1 売上高には、消費税を含む。また、推計は速報値のため、今後変更する場合がある。

※2 前回調査：家具、建具 令和元年度調査（平成30年度実績）  
工芸品、陶磁器 平成30年度調査（平成29年度実績）

### ●家具製造業

旭川地域における木製家具製造を主とする事業所の令和元年度における総売上額を平成30年度比0.67%増の152億円と推計しました。前回調査に比べ1人当たりの生産額は、同額でしたが、推定従業員数が微増したことにより、推計総売上額が増加しました。

調査結果から、生産品目は、過去8年で見ると、棚物家具が17%減少し、その他（店舗什器・住宅設備・オフィス家具等）が、20%増加しています。また、製品構成について、3年ぶりに自社オリジナルが増加し特注品が減少しました。

現在の課題については、「施設設備の老朽化」、「人材育成」、「熟練工の高齢化」が依然として上位を占めており、過去4年で見ても大きな変化はありません。

新型コロナウイルス感染症の影響については、受注の減少、発注のキャンセルや納期の延期等で、50%以上（前年比）売上げが減少している事業所や、回復の兆しが見えず苦難している事業所があることがわかりました。

令和2年度の動向については、新型コロナウイルス感染症が、多くの産業に多大な影響を与えており、感染終息時期が見通せない中で、順調に正常化に向かうのか予断を許さない状況ではありますが、同感染症の流行に伴う需要や、経済活動の変化や傾向等を踏まえ、産地全体で課題を整理しながら対応策を検討していく必要があると考えます。

### ●建具製造業

旭川地域における木製建具製造を主とする事業所の令和元年度における総売上額を、前年度比8.5%減の約20億5,300万円と推計しました。

過去の推計値の推移を見ると、平成24年度は約14億円でしたが、次年度に予定されていた消費税率引き上げ前の駆け込みと思われる需要により、平成25年度は約21億円まで大幅に増加しましたが、その後、ゆるやかな減少傾向が続き、平成29年度からは増加に転じましたが、今回調査で再び減少となりました。

生産品目については、ここ数年の傾向と同様に、売上規模が大きくなるに従い建具の比率は下がり、家具（造作）の比率が高まる傾向にあります。

令和元年度の受注状況について、平成30年度との比較では「増加」と回答した事業所はなく、

また、令和2年度の見込についても、「増加」と回答した事業所がなかったことから、厳しい状況にあることが窺えます。

新型コロナウイルス感染症の影響については、工事の延期や中止が多くなり、受注が減少するなどの影響で、売上げ及び売上単価いずれも減少しているなど厳しい状況にあることが窺えました。特に店舗関係の工事や什器類の仕事が激減し、それに伴い受注競争が激化し大きな負担になっているとの声が聞かれました。

今回調査での課題や傾向等を踏まえ、今後も市場動向に注視し、旭川地域全体で対応策を検討していく必要があります。

## ●工芸品等製造業

今回調査（令和元年度実績）と前回調査（平成29年度実績）のデータを比べると1人当たりの生産高が2.8%増加していますが、事業所数と就業者数が減少していることにより年間生産高は2.7%減少しました。また、約40%の事業所は前回調査より10%以上の減収と回答しており厳しい現状であることが窺えます。

多くの事業所から、原材料が値上がりしていることもあるが、製造に必要な特定の木材の確保が難しくなっていることや、質が下がっていることもあり、商品を製造するにあたり苦慮しているとの声が聞かれ、材料の確保が以前より難しくなったと感じています。また、後継者については、やる気のある若者に技術を継承したいと考えている方が多く、後継者育成のための講習会があったら良いとの声も聞かれました。

新型コロナウイルス感染症の影響として特に問題となっていたのは、観光地に商品を卸している事業所で、実態調査を行っていた9月の時点では観光客（特に中国、韓国などの外国人観光客）の出入りが激減しているため、売上げが見込めない状態にあり、また、観光地と同様に百貨店や小売店からの注文も減少傾向にあるため商品を製造しても販売できないという現状にありました。

逆にインターネットによる販売については、特別定額給付金による商品の購入や巣ごもり需要の高まり等により、売上額的には影響を受けていない事業所もありました。また、このような消費のない時期だからこそ、新しい生活様式に対応した新商品の開発を行うことができたという前向きな意見もあり、今後についても、業界の活性化に期待しています。

## ●陶磁器製造業

加齢や家族の介護等を理由とした生産量の減少のほか、転出等による従事者数の減少が主な要因となり、推定総生産額が前回調査時から大きく落ち込みました。

販路開拓や後継者不足を課題として挙げている窯元もあり、近年は独立や新たに開窯する方々が少ない上に、転出や廃業による人的損失が発生しているため、陶芸に興味を持つ人々を増やし、次世代へとつなげる取組は急務となっています。

一方で「無理のない範囲で続けている」「現状に満足している」との話が聞かれるなど、60代以上が85%を占める中、自身の健康状態や家族の状況に合わせて計画的に生産を減らしつつも、大切なライフワークとして続けている方々が多い印象を受けました。

新型コロナウイルス感染症の影響については、今年度の主要な展示会・販売会が全面的に中止となったことなどにより主たる販売機会が失われ、持続化給付金の活用や感染症対策を講じた小規模な展示会への出展など、活動が限定的になっており、作陶の意欲を奪われた方々も多かったようです。

しかし、陶芸市やイベントの中止による空白の時間を活用し、ネット販売に向けたサイト構築やホームページのリニューアルなど、新たな活路を模索する取組も増えており、厳しい状況下においても、生活様式の変化により生まれる新たな需要の獲得に向け、日頃は腰を据えて取組むことが難しい新商品の開発や研究、緻密な作品づくりに励む時間が増加したと前向きに捉える声も少なくありませんでした。

次年度の調査は家具及び建具を対象に調査を予定していますので、お手元に調査票が届きましたらご協力くださいますようお願いいたします。なお、今回の調査結果の詳細につきましては、当センターまでお問い合わせください。

## 🌱 工芸産地としての旭川をPRするための取組 🌱

### 旭川工芸 プロジェクト ReBORN

新型コロナウイルス感染症の流行によって展示会等の販売促進の場が多く失われたことを受け、それに代わる旭川工芸の情報発信のための取組として実施された「旭川工芸 プロジェクト ReBORN」の支援を行いました。

プロジェクトでは、参加者それぞれが新作の工芸品を制作、その制作過程や工房の様子などを紹介する動画を自ら撮影し、Youtube を用いて全世界へ発信しました。より多くの人に動画を視聴してもらうため、動画のQRコードや作品紹介、作者の顔写真を載せたパンフレットを作成し、国内外のバイヤーや消費者へのプロモーションも行いました。

また、これらの活動に併せて、プロジェクトの概要や旭川地域の魅力を紹介するティザー広告も配信するなど、紙媒体とWebメディアを効果的に活用しながら、旭川工芸のブランド力強化と各種関係機関との連携・交流を図り、新型コロナ収束時には新たな旭川工芸展の開催へと繋げていきます。



## 🌱 人事異動報告 🌱

### 令和2年度配属職員の紹介

前回の工芸ニュース vol.83（2020年3月発行）から、次のような職員の異動がありました。

＜転出＞ 千葉 甲 猪川 達也      ＜転入＞ 千葉 将壽（新規採用）

※ いずれも4月定期人事異動

#### ■千葉 将壽（ちば まさとし） 新規採用

令和2年4月より専門職新規採用で工芸センターに配属となりました、千葉と申します。昨年の3月までは、木製品製造業で主に特注家具を製作する仕事をしていました。

工芸センターでは、諸先輩よりアドバイスや技術指導を受けながら、さまざまな試作品の設計から製造までを行っています。仕事は実際につくることに関わる時間が多く、これまで培ってきた自分の経験が少しは役に立っていると感じています。また、5軸制御NCルータ実験機など、これまで使ってこなかった木材加工用機械の操作の習得に日々励んでいます。

一日も早く旭川地域の企業の方々のお力になれるよう、これからも努力していきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

工芸ニュース 第84号 発行年月／令和3年3月

発行／旭川市工芸センター

〒078-8801 旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内

TEL：0166-66-1770 FAX：0166-66-1776

E-mail：kougeicenter@city.asahikawa.lg.jp

HP：https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/kurashi/364/365/369/d053192.html